

「IgG4 関連疾患の病態形成メカニズム解明に関する研究」へのご協力をお願い

ー平成 10 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日までに岡山大学病院において IgG4 関連疾患、唾石、シェーグレン症候群、口腔癌などで口唇生検や顎下腺摘出術を受けられた患者さまへー

研究機関名 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

責任研究者

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

病態制御科学専攻腫瘍制御学講座病理学分野（腫瘍病理） 講師 佐藤康晴

分担研究者

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

病態制御科学専攻腫瘍制御学講座病理学分野（腫瘍病理） 助教 高田尚良

1. 研究の意義と目的

IgG4 関連疾患は、21 世紀になり我が国より提唱された新たな疾患概念であり、日本をはじめとするアジア諸国に発生頻度の高い、腫瘤形成性の炎症性疾患です。病変部では多数の IgG4 陽性細胞の浸潤を伴い、線維化や閉塞性静脈炎といった特徴的な病理組織像を呈します。また、唾液腺をはじめ、下垂体、涙腺、リンパ節、肺、膵臓、胆管、後腹膜、血管、前立腺など様々な全身諸臓器に病変を形成することを特徴とし、血液検査において血中 IgG4 値の上昇も認められます。多くは、長期ステロイド投与によって病変の縮小が認められますが、ステロイドの減量や投薬中止によって再燃する患者さまも多くみられます。現在、その疾患の存在が明らかとなってから 10 数年経過していますが、その病態形成メカニズムは不明な点が多々あります。今回の研究では IgG4 関連疾患の病態形成メカニズムを明らかにし、新規治療法の開発への手掛かりにしたいと考えています。

2. 研究の方法

1) 研究対象：

岡山大学病院で口唇生検や顎下腺摘出術を受けられた患者さま

2) 調査期間：

平成 25 年 3 月開催の倫理委員会承認後～平成 28 年 4 月 1 日まで

3) 研究方法：

平成 10 年 1 月 1 日～平成 24 年 12 月 31 日までの間に当院において口唇生検や顎下腺

摘出術を受けられた患者さま，研究者が診療情報をもとに対象の病理標本を抽出し，病気に関係する蛋白を解析します。

4) 調査票等：

研究資料にはカルテから以下の情報を抽出し使用させていただきますが，あなたの個人情報には削除し匿名化し，個人情報などが漏洩しないようプライバシーの保護には細心の注意を払います。

- ・ 年齢，性別，検査データ

5) 情報の保護：

調査情報は岡山大学病理学教室内で厳重に取り扱います。電子情報の場合はパスワード等で制御されたコンピュータに保存し，その他の情報は施錠可能な保管庫に保存します。

調査結果は個人を特定できない形で関連の学会および論文にて発表する予定です。

この研究にご質問等がありましたら下記までお問い合わせ下さい。御自身や御家族の情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので，平成 25 年 6 月 30 日までの間に下記の連絡先までお申出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様にご不利益が生じることはありません。

<問い合わせ・連絡先>

連絡先：〒700-8558 岡山市北区鹿田町 2-5-1

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病理学分野（腫瘍病理）

TEL: 086-235-7150